次期学習指導要領 教科別まとめ　　小学校 No.11

審議まとめ（2026年10月5日）を**小学校の先生向け**にまとめ直しました

小学校版

特別の教科 道徳

次期学習指導要領で、どう変わる？

1つの教材を複数時間で扱い、じっくり考え議論する道徳へ



10秒でいうと　1つの教材を翌週などにまたいで複数時間で扱う。「深める教材」は高学年8・中学年4が目安

やさしく言うと

道徳科の目標は今の書き方を保ち、「考え、議論する道徳」を授業で実際に行えるようにする方向です。今は1時間に1つの読み物教材を扱い、登場人物の気持ちを読み取るだけで終わる授業が課題とされました。そこで1つの教材を複数時間で扱い、じっくり考える授業を進めます。小学校では発達の段階に合わせ、低学年ではとくに慎重に考える方向です。

小学校はいつから？

全面実施	**2030年度（令和12年度）から（見込み）**
移行期間	2028～2029年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2030年度から新しい教科書（2028年度に検定）

この冊子の中身

1 特別の教科 道徳のポイント　4つ
2 主な変更点　10項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　5項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　4項目
6 今からできる準備チェックリスト　8項目
7 次期を先取りする授業アイデア　1本
8 現行の学習指導要領・解説（小学校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

道徳の3行要約（全校種）

1. 目標・評価・内容項目の枠組みは今のまま。次は「考え、議論する道徳」をすべての学校で実際に行う段階（「実装」）と位置付けられた。
2. 1つの教材を翌週などにまたがって2コマ以上でじっくり扱う「複数時間」と、教科書に新しく入る「深める教材」が改善の柱。中学校は13コマ分程度が目安。
3. 特別活動・社会科などとの連携、教師が交代で学級を回る「チームで行う道徳授業」、AIや情報モラルの扱い、デジタル活用の注意点も示された。

※「深める教材」の数は教科書のイメージとしての目安で、読み物教材と合わせて35コマ分。

1 特別の教科 道徳のポイント

4つ

1 1つの教材を「複数時間」で扱う

1つの教材を2コマ以上に分けて扱う授業を進める方向です。連続した2コマではなく、翌週に続けて扱うことが想定されています。2コマ目には、読み物ではない「深める教材」を使うことも考えられています。低学年では、複数時間の運用に慎重であるべきとの意見も出ています。 P309 P312

授業では、たとえば たとえば高学年で、1週目に教材を読んで問いを立て、翌週にその問いを話し合いや役割演技で深めることが考えられます。

2 「深める教材」の目安は高学年8・中学年4

教科書の読み物教材を精選し、「深める教材」を充実させる方向です。深める教材の数の目安は、小学校高学年で8、中学年で4、低学年で0とされています。読み物教材と合わせて35コマ分です。これは国が示す教科書のイメージとしての目安です。 P312 P313

授業では、たとえば たとえば中学年では、2時間扱いにする教材を学年で年に数回だけ選び、子供の様子を見ながら広げていくことが考えられます。

3 「深い学び」の2つの視点

道徳科の「深い学び」の手がかりとして、2つの視点を示す方向です。1つは「多面化・多角化」で、ものの見方が一つから多方面に広がることです。もう1つは「自我関与」で、自分との関わりで価値の理解が深まることです。 P308

授業では、たとえば たとえば「主人公はどうすればよかったか」に加えて、「自分ならどうするか、なぜか」を問う発問を1つ入れることが考えられます。

4 端末で意見を共有するときの配慮

端末で意見を見える形にしたり共有したりする活用が示される一方、配慮も求められています。共有が「言いたくないことまで言わされる」圧力にならないようにすることです。家族愛では多様な家族の形、生命の尊さでは病気などへの配慮が必要とされています。P316

授業では、たとえば たとえば家族を扱う授業では、全体での共有はせず、自分のノートに書くだけでもよい選択肢を用意することが考えられます。

2 主な変更点

10項目

1. 小 中 1つの教材を「複数時間」でじっくり扱う授業を進める

今の道徳科は1時間に1つの読み物教材を扱うことが多く、登場人物の気持ちの読み取りで時間が終わり、考えを深めるところまで届かないという課題が指摘されています。そこで、発達の段階をふまえながら、1つの教材を複数のコマで扱い「じっくりと深く学ぶ」授業を進めるとされました。複数コマは連続2コマではなく、翌週に続けて扱うことを想定しています。同じ内容項目を深める形（パターン1）と、関連する別の内容項目も扱う形（パターン2）の両方があり得るとされています。P301 P309

2. 小 中 教科書の読み物教材を減らし「深める教材」を入れる

今の教科書は各学年35コマ分の読み物教材が基本で、それが「1時間に1つの読み物教材」という授業につながっていると指摘されました。今後は読み物教材を精選し、2コマ目などで使う「深める教材」（読み物より簡素で、話し合いや体験的な学習につなげやすい教材）を教科書発行者が開発する方向です（教科書での示し方は今後検討）。深める教材の目安は中学校13、小学校高学年8、中学年4、低学年0で、読み物教材と合わせて35コマ分とされました。なお資料編（m4 P88）では、これは教科書のイメージであり、現場の実践を制限するものではないと注記されています。P312 P313

3. 小 中 「問題解決的な学習」「体験的な学習」の趣旨と「葛藤」の例を分かりやすく示す

「問題解決的な学習」と「道徳的行為に関する体験的な学習」（役割演技、動作化、当事者に会う活動など）について、趣旨と具体例が示され、活動そのものが目的にならないよう注意することや、これら以外の方法も含めて多様な実践をすすめることを明確にするとされました。学習で扱う「問題」の例は、これまでの4項目から、「価値の実現をめぐる葛藤」（分かっているのに行動が難しい）と「価値の対立をめぐる葛藤」（一方を取ると他方が損なわれる）の2つに整理して解説で示すとされました。価値の対立を扱うときは、主題に関連して複数の内容項目を設定できることも解説で明確化するとされました。感情の認識や調整に関わる学びも、体験的な学習の一例として解説で示すとされました。P310 P311

4. 小 中 道徳科の「深い学び」を2つの視点で示す

現行の解説をもとに、「多面化・多角化」（ものの見方が一面的から多面的・多角的に広がること）と「自我関与」（自分との関わりで道徳的価値の理解が深まること）を、道徳科の「深い学び」の2つの視点として、現場で使えるイメージを示すとされました。登場人物の心情理解や、分かりきった善悪を確認して終わる授業からの転換をねらいとしています。P301 P308

5. 小 中 教師が交代で学級を回る「チームで行う道徳授業」を導入できると明確化

現行の中学校学習指導要領では道徳科の指導は「学級担任が行うことを原則」としつつ、解説で交代で回る取組も効果的としています。次期では、同じ教材で繰り返し授業をすることで経験の浅い教師も含めて指導力が上がることなどから、学校の実態に応じて教師が交代で学年・学級を回って授業する方策を導入できることを明確化するとされました。一方で、子供の成長を見取りにくい、低学年では同じ先生の方が安心して発言できる、といった留意点も示されています。負担軽減だけが目的にならないことも注意されています。P315

6. 各教科・特別活動・社会科と道徳科の連携をはっきりさせる

道徳科は「道徳教育の要」として、各教科等で行う道徳教育を補い、深め、まとめる役割を持ちます。各教科の「内容の取扱い」にある道徳教育の記載は維持したうえで、その趣旨を解説でより具体的に示すとされました。特に特別活動とは、道徳科で考え議論したことを学級のルールづくり（合意形成）や自分の行動選択（意思決定）に生かす関係を、参考資料で分かりやすく示すとしています。主権者教育を進める社会科・特別活動の方向性とも連携し、道徳的価値やその葛藤を扱うことを解説で示すとされました。P302 P303 P304

7. 全体計画・道徳教育推進教師・高校の「中核的な指導の場面」の見直し

総則の道徳教育の記載は現行を維持するのが基本です。そのうえで、高校の全体計画も小中と同じく「重点目標」を書くなど、小・中・高で書き方をそろえるとされました。「道徳教育推進教師」は役割の共通理解が十分でないため、国が役割や、過度な負担なく取り組める実践例の資料を提供するとされています。高校では「人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面」に、公民科（公共、倫理）と特別活動に加えて総合的な探究の時間を新たに位置付けることが提案されています。ただし、総合で道徳教育のための時間を別にとる必要はないと注意されています。P304 P305 P100

8. 小 中 情報モラルの見直しとAIが生む道徳的な問題を扱う

AIによる大量の情報や誤情報、低年齢からの情報発信・拡散、デジタル・タトゥーや闇バイトへの関与などのリスクが増えたことを受け、情報モラルの扱いを解説で見直すとされました。「してはいけない」と分かっていることも、なぜしてしまうのかという心の弱さと関わらせて考え議論することや、炎上投稿のリポストのように単純な正誤では判断しにくい問いと向き合う機会を設けることが示されています。また「何のために、どこまでAIを使うか」などAIが生む道徳的な課題を、教材で扱えることを解説で示すとされました。P314

9. 小 中 デジタル・AI活用のイメージと、内容項目ごとの配慮

意見の可視化・共有、振り返りの蓄積、AIに異なる立場の意見を出させるなどの活用イメージと留意点を、解説等で示すとされました。AIの答えを正解として扱わず批判的に吟味すること、まず自分で考えてから補助的にAIを使うことが注意点です。また、意見の共有が「言いたくないことまで言わされる」圧力にならないよう、内容項目ごとの配慮例（家族愛では多様な家族構成、生命の尊さでは家族の病気などへの配慮等）も示すとされました。P316 P317

10. 小 中 内容項目の一部の文言を見直す

4つの視点と内容項目の枠組みは維持し、個別に必要な見直しを行うとされました。中学校の［家族愛、家庭生活の充実］の「父母，祖父母を敬愛し」は、例えば「父母、祖父母等の家族」とするなど見直します。［友情、信頼］の「心から信頼できる友達をもち」は、例えば「友達と互いに信頼し合い」とするなど見直します。小学校低学年［節度、節制］の「わがままをしない」は、子供の主体性をおさえる趣旨ではないことを解説で明確にするとされました。内容は、4つの視点ごとに学年を分けた表の形で示す案です。P306 P307

3 現行と次期の比較（新旧対照）

5項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
授業の進め方	1授業で1つの読み物教材を扱うことが多い。学習指導要領には「一つの内容項目を複数の時間で扱う指導」も例として書かれている。	1つの教材を翌週にまたがるなど複数コマで扱い、2コマ目に「深める教材」や問題解決的・体験的な学習を組み合わせて「じっくりと深く学ぶ」。P309 P310
教科書の教材構成	各学年の教科書に35コマ分のいわゆる「読み物教材」が載っているのが基本。	読み物教材を精選し、「深める教材」と合わせて35コマ分に。深める教材の目安は中学校13、小学校高学年8、中学年4、低学年0。P312

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
問題解決的な学習で扱う「問題」の例	平成28年の報告で4項目（価値が実現されていない問題、理解不足や誤解の問題、分かっているのにできない葛藤、複数の価値の対立）を例示。	「**価値の実現をめぐる葛藤**」「**価値の対立をめぐる葛藤**」の2項目に整理して解説で例示。価値の対立を扱う際は複数の内容項目を設定できると明確化。P311
全体計画の書き方（高校）	小中は「重点目標」を設定、高校は「指導の方針や重点」を明らかにする。	高校も全体計画に「**重点目標**」を書くなど、小・中・高で規定に**連続性**を持たせる。P304 P100
目標・見方 考え方・評価	目標は発達段階に応じて書き分け。見方・考え方は目標と別に示さない。評価は数値でなく記述式、大くくりのまとまりで、他者と比べない個人内評価。調査書に書かず入試に使わない。	いずれも**現行の考え方を維持**。資質・能力を観点別に分けて扱わない整理も継続。P306 P308

4 授業時数

道徳科の授業時数を変えるという記述はない。本文では道徳科は「35単位時間の授業が行われることが前提」とされる（P304注、P309）。ただし現行の標準授業時数は小学校1年のみ34単位時間で、小学校2年以上と中学校が35単位時間。時数全体の見直しでは、現在35コマ以下の教科等からは時数を減らさない方針（P79）で、調整授業時数制度でも35コマ以下の教科等は減らせない（P32）。ソーシャルスキル育成などは道徳や特別活動（学級活動）への調整授業時数の上乗せで対応することも考えられるとされる（P33）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

4項目

1. AIが新しい道徳的課題を生んでいる

AIなどの発展は、偽・誤情報やフィルターバブルによる価値観への影響だけでなく、AIへの過度の依存やELSI（倫理的・法的・社会的課題）など新しい道徳的課題も生んでいます。「AI時代の自らの人生の舵取り」の点からも、道徳教育の重要性が増しているとされています。P301

2. 道徳科でのAIとの向き合い方

AIをめぐる問いの例として、「何のために、どこまでAIを使うべきか、そもそも何のために学ぶのか」「AIの出力や、AIで個人向けに選ばれた情報をどう受け止め判断するか」が挙がっています。発達段階をふまえ、AIの道徳的課題を教材で扱えることを解説で示し、技術の変化に合わせて見直すとされています。P314

3. 道徳科でのAIの活用と留意点

AIに異なる立場の意見を出させる実践があり、考えを多面的・多角的にするうえで一定の効果が期待できるとされています。ただし、AIの回答を正解として扱わず道徳的価値との関わりで批判的に吟味すること、自分で考えた後に補助的にAIを使うなど、迷いや葛藤を含めて子供自身が考える機会を確保することが留意点です。P316 P317 資料編（3）P90

4. 情報モラルの変化

10年前と比べ、AIによる大量の情報生成を含めて、正しい情報と誤情報の見分けが難しくなっていることなどが指摘されています。P314

6 今からできる準備チェックリスト

8項目

- [ ] 今すぐ 年間指導計画の中から、1つの教材を翌週にまたいで2時間扱う授業を、まず1つ試行する箇所を選びます（頻度は審議まとめの目安ではなく、学校の実態に合わせて決めます）。中学校や小学校高学年から始め、低学年では慎重に考えます。P309 P312
- [ ] 今すぐ 発問を見直し、登場人物の気持ちの読み取りにかける時間を減らして、「多面化・多角化」と「自我関与」を促す問いを1つ入れます。P308 P309

- [ ] 今すぐ 教科書の教材を「価値の実現をめぐる葛藤」と「価値の対立をめぐる葛藤」の2つの葛藤の見方を手掛かりに点検し（2つは相互に関連し、はっきり分けにくい教材やどちらにも当てはまらない教材もあります）、子供の発達段階や実態もふまえて、問題解決的な学習に活用できそうな教材に印をつけておきます。P311

- [ ] 今すぐ 端末で意見を共有するときの配慮を確認します。家族愛、生命の尊さ、友情・信頼などの内容項目では、言いたくないことまで言わされる圧力にならないよう、共有しない選択肢を用意します。P316

- [ ] 告示まで 学年で「チームで行う道徳授業」（教師が交代で学級を回る授業）を試す場合は、子供の成長の見取りを担任へ伝える方法と、低学年での扱いを先に決めておきます。負担軽減だけが目的にならないようにします。P315

- [ ] 告示まで 特別活動の年間計画と道徳科の年間計画を並べ、道徳科で考えたことを学級のルールづくり（合意形成）や行動の選択（意思決定）に生かせる時期に印をつけます。P303 P304

- [ ] 先行実施まで 情報モラルの教材を点検し、「してはいけないと分かっているのに、なぜしてしまうのか」を考える問いや、AIの使い方をめぐる問いを扱う授業を年間計画に位置付けます。P314

- [ ] 全面実施まで 道徳教育推進教師を中心に、複数時間の授業や「深める教材」を使った実践の記録を校内で共有し、全体計画の重点目標と結び付けて見直します。P304 P317

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

小学4年　1単位時間（45分）

「わかっているのに、言えない」を考える

正直に言えない心の弱さに目を向け、役割演技で言い出し方を試します

手順・ワークシート

ねらい

正直でいたいと分かっていても言い出せない気持ちに目を向け、その気持ちとどう向き合えばよいかを、役割演技を通して自分との関わりで考える。

流れ

5分　場面を読み、「この子は、何をすればよいか分かっていると思いますか」と問います。多くの子が「分かっている」と答えることを確かめます。

10分　「分かっているのに、どうして言えないのだろう」を個人で考え、心の天気カードで気持ちの強さを示しながら出し合います（怒られるのがこわい、嫌われたくない など）。

12分　役割演技。2人組で「言い出せない子」と「貸した友達」を演じ、言い出し方を2通り試します。演じた後、それぞれの役でどう感じたかを短く話します。

8分　全体で、言えたときに気持ちがどう変わったか、言われた側はどう受け取ったかを共有します。教師は「正直に言うべき」とまとめず、「言い出しにくい気持ちを支えてくれるものは何だろう」と問います。

10分　「自分にも似たことがあったか（書ける人だけ）」「言い出せない気持ちのときに、自分を助けてくれるものは何か」を振り返りカードに書きます。

評価

発言や振り返りカードから、言い出せない気持ちを自分にも起こりうることとして考えているか（自我関与）、言い出し方や気持ちについて友達の考えに触れて見方を広げているか（多面化・多角化）を見取ります。役割演技の上手さや、「正直に言う」と書いたかどうかでは評価しません。

8 現行の学習指導要領・解説（小学校）

PDF 小学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）

https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編**
https://www.mext.go.jp/content/20260318-mxt_kyoiku01-100002607_12.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P〇 は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P〇** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る